

日本社会では、私達を含めて新しい宗教を押さえ込もうとしていました。噂では次の標的は統一教、私たちのUCだとされていました。

日本の警察が教会に調べに来たり、新聞の見出しになったり、とてもひどい状況でした。そのような環境の中でお父様は日本の教会状況を調べたり、財政面を調べたりするために国進様を日本に送られました。

国進様が全体の状況を調べられました。彼はまた、監禁問題、拉致問題があるのを見たのです。しかし日本人の責任達はその問題には立ち入らないでくださいと国進様に言いました。もし問題に立ち入れば、あなたは見たくない問題、明らかにしたくない様々な問題がつまった箱を開けるようなものです！と。

拉致問題、監禁問題に対して、徐々に問題を解決する方向へ向かってきたのは国進様のおかげだと言わなければなりません。国進様自身が欧州の国連やアメリカの国連などを動員し、拉致監禁問題を明らかにさせてきたのです。

もちろん亨進様も可能な限り、例えば拉致監禁から日本人の兄弟姉妹を助け出すための一万人の署名運動などをしたり、また拉致監禁の経験がある姉妹に、拉致監禁問題は本当に起こっている事実であることを広めるために、体験を証してもらうことを頼んだりしました。

最初は誰もそんなことが起こっている事を信じませんでした。日本政府もこの件を取り上げようとはしませんでした。しかし国際的な圧力が日本政府に対して、影響しはじめました。

仁進様が、アメリカの国会議員に働きかけた影響もありますか？

それはまた別の事になります。アメリカの国会議員が来たりしました。

ACLIC(America Clergy Leadership Conference)もこの事に関してデモンストレーションなどをやったりして、国際的な努力がなされ、またヨーロッパでは、私たちはジュネーブの国連にこの拉致監禁問題を議題提案して、拉致監禁問題を目立たせるようにしました。日本は先進国であり、自由の国だけれども、日本政府が国民にやってきたことは、宗教の自由を認めていると言いながら、このように実際には宗教の自由がない状況であると、、、それで、どのくらいたったかはわかりませんが、およそ一年か、一年以内で結果ができました。この影響もあり、日本政府は私達の教会の調査から手を引き始めました。また多くの日本人リーダーも別のルートを通して日本政府に対して働きかけていました。

後藤さんのケースで勝利したのは、この国際的な努力のおかげです。私はとても誇りに思っています。また後藤さん自身も、彼にとっては自分の両親に反対していくことがとても困難だったにもかかわらず、法廷で両親に対抗して、多くの日本人の兄弟姉妹の為に証言されました。とても誇りに思います。

過去10年間、真の御父母様との関係へのあなたの認識は、どんなものでしょうか？

それはとてもおかしなものです。例えばもしあなたが「何か」の中にいて、それを分析するというのは非常に難しいことです。なぜならあなた自身がその一部に属しているからです。

誰もが真の家庭に問題があるのを知っていましたが、、でも私には見ないふりもすることができました。それは私もその一員だったからです。

私が1997年、真の家庭に入った時、お父様とお母様との関係に何か問題があったとは言えません。その時は、このような状況なのだとそのまま受け入れていました。お父様とお母様の関係はこういうものだと。そういうものだと受け入れていました。

お母様は頻繁にお父様のコメントに対して動揺されていました。お父様が公に訓読会でお母様の事を語られた内容に対して動揺されていました。お母様は非常に動揺され、またその動揺を露わにされていました。

どのようなコメントに対してですか？

たとえば、”お母様はお父様について何もわかっていない”とかそれに似たこととか、

”お母様は私に言い返す”とか、それでお父様はこのようなことをリーダー達の前で語られ、お母様の居心地が悪くなり、立ち上がり、席をはずされ出ていかれたりしました。

お母様はそのようなコメントに対しては機嫌を悪くされ、気分を害されていることを露にされていました。何度か見たことがあります、、お父様が人々の前でコメントされ、お母様は機嫌を悪くされ、立ち上がり、席をはずされ、出て行かれ、上の階に上がられ泣かれたこともあります。みんながお母様に対してどんな思いを持たれたらうとか、、とても居心地が悪く、悲しまれたからです。

その時は、正直に言えば、私はお母様側に立っていました。”私の夫が私に対しあのようなコメントをしたら、とても居心地悪いだらう”というように私も思ったのです。私は彼らの関係を単なる人間的な関係として見ていたのです。

しかし同時に、お父様はお母様に情を差し伸べられ、お母様が”NO、NO”と拒まれているのも見たこともあります。

私の彼らの関係に対する見方が変わったのは、2006年に天正宮ができてからです。それまでは漢南洞の小さく管理しやすいところでしたが、天正宮ではとても広大な場所になりました。

それで、お父様がおられない時、お母様が独自にリーダー達に会われたり、またお父様が訓読会をされている時、別のところでリーダー達に会われたりしました。私はお母様にもやらなければならないことがあるのだろうと思って、それを受け入れていました。

でも、お母様は時々私の子供達にさえ、あなた達のおじいちゃん(お父様)は、私をとて難くさせていると語られました。多分それは、御父母様が争われていてもしょうがない事だと、、実際にそれはそんなに大きな問題ではないと考えていました。

私は御父母様の間にも、夫と妻としての争いがあるのだろうと理解していました。そのように思っていました。

夫と私がお父様のそばで仕えるようになった頃、しばしばお母様はリーダー達と会い、彼女は自分の意見を表されましたが、私はお母様にはお父様との葛藤があるのを感じていました。

ヘリコプター事故の後の、お父様とお母様の関係はどうでしたか。

お父様は、以前は毎日活動されていました。毎日5時から訓読会をもたれました。私達は4:00から4:30くらいにそこにいきましたが、お父様はすでに自分の運動をされていました。お父様がいつ起きられているのかは知り

ませんが、でもお父様はいつも一時間くらい朝の運動をしているよと言われました。運動した後、お父様はシャワーをされ、そして訓読会に行くのがいつもの日程でした。

しかしヘリコプター事故の後には、お父様は身体をそれまでのように動かすことができなくなり、躓いたり、足の力がない為に、バランスを崩して倒れたりするのを防ぐために、誰かのサポートが必要になりました。私の夫は常にお父様のそばでサポートしました。また、別の付人がお父様をサポートするために常に立ち会うようになりました。その後、お父様はさらに動くのが大変になりました。私から見てもお母様とお父様が争われることが多くなっていき、お父様に対する反応がますます強くなり、明らかに表されるようになっていきました。

何度もラスベガス天和宮で多くの真の家庭のメンバーが御父母様の部屋に行くことがありましたが、そこでお母様がお父様に叫んでおられたことがありました。そしてお父様もそれをとて怒られていました。

また、何度か御父母様が争われた後に、お父様が訓読会に出てこられ、お父様が話されている最中にお母様は出て行かれ、お母様はみんながわかるほど怒りを表されていました。

お母様はそれまでも怒られることがありましたが、表情には出さず、席をはずして、上の階に上がり、気を落ち着けられていました。この2-3年は、お母様はメンバーやお父様にもわかるように怒りを表されるようになったのです。

そのような場面が写ったビデオは、ビデオの担当によって消されました。

亨進様のお母様に対するアドバイスは？

実際にお母様は亨進様に聞かれました。”どうしてお父様は私をこのような困難な立場にさせると思うのか？”その頃、私はお母様がどうしてお父様をそのように考えられるのかわかりませんでした。私には理解できませんでした。女性として、私はお母様のことを慰めなければならないと思っていました。お分かりと思いますが、私はお母様のためにいなければならないと思っていました。

亨進様は、このことに関してはとてもはっきりされていました。亨進様はお母様に言われました。

”お父様が厳しく訓練されるのは、そうしてあなたが栄光なる真の母となるためです。あなたにとって、あなたを訓練することのできる方、あなたを、神様を愛し、真のキリストを愛する真の母に、本物の女王してくれる方は一人だけです。だからこれは訓練期間であり、お父様は訓練されているのです。

このように実際に言われました。

しかし、お母様はこのことを聞き入れませんでした。お母様にはこのようなことを聞く、受け入れる心のスペースがありませんでした。

お母様は”お父様はサタンの血統から出てこられた”と言われ始めました。また、お母様は”私はお父様からは何も習ってはいません。でも私はすべてを知っています。”さらには、”私は原理講論も聖書も読んでいません。私はそういうことはしなくても良いのです。しかし私は最初から知っていました。” お母様は私達にでさえ、このように言われました。

これが、私達が見てきたことです。亨進様は常時、彼らが幸せであられるようにと、御父母様に接し続けられました。

私達が韓国に行った時でさえ、お父様は清平で過ごすことは好きではありませんでした。お父様が行きたがっていた所は韓国の南部にあるヨスです。

ご存知のように、お父様は魚釣りの条件をされるのが好きですが、清平では魚釣りをすることはできません。清

平に人工的な池を造りましたが、それは海を知り尽くしているお父様には小さすぎました。お父様は海を愛されていた。だから、お父様は南にある巨文島やヨスに行かれました。そこに泊まり、過ごされるのが好きでした。お母様は私達夫婦をしばしばそこに送られました。お母様は、「自分の健康を考えなければならないし、会議もあるので、あなた達が行きなさい」といわれました。それで私達は時々3-4日とお母様抜きで泊まることになりました。

私たちはお母様に電話しました。私の夫はお母様に電話し、「ここを出てそこに行きましようか？」と言われましたが、お母様は”こなくていいのよ、私はやらなければならないことがあります。あなた達はそこでお父様と泊まっていなさい”と言われました。

でも、私の夫はあのような悪戯坊やです！ お母様のところに行こうとしました。”お母さん、私は行きますよ！”、、、(笑)

お父様の聖和後、韓国において、亨進様が指導者の位置からはずされた時のことを話してもらえますか？

それは、すべてが一度に起こった事ではありません。それはひとつずつ起こっていきました。

この事に関しては、、、多くの人々が亨進様は恨みを持たれているとか、権力を取りたいためにやっているとか、またこのようなことをするのは、彼の日が来るのが、遅れたためだとか、、、

私が本当に言いたいことは、亨進様は静かにしていたかったのであり、彼はお母様がなされるそのままに従いながら歩まれたかったのです。彼はこのようなことなど、全てしたくはありませんでした。沈黙を破り、声を上げられたり、そしてすべての反発や批判を受けたり、人々から罵倒され、あなたは孝行息子でないとか、その他のもろもろ、、、

2番目に私が言いたいことは、お母様が彼らにしたことで、もっとも傷ついたのは彼ら自身だということです。それは、彼ら自身、お父様とお母様を全面的に信じておられたからです。お父様とお母様に対してです！

彼らとは、誰の事を意味しているのでしょうか？

亨進様と国進様のことです。彼らはお父様だけでなく、お母様も完全に信じておられました。そうです、もちろんお父様とお母様の間で争いのようなことはありました。そこには二人の同意できない事があったり、非常に厳しい時などがありましたが、彼らは乗り越えることができました。彼らは大人であり、夫婦でもあります。

もちろん、私も夫を怒らせることも当然あります。

それでも彼らは、お母様は正しい決定をされるとお母様を信じていられました。

亨進様はお母様のもとですべての状況を見ておられたので、亨進様は何度か国進様に言われました。”国進様、私達は全てのことにお母様の名前を使わないほうが良いのではないのでしょうか？”と。

宣教会財団、ソウルにあるメガチャーチの天福教会とか、清平財団とか、その他の全てのものが、お母様の名前でした。その当時、国進様は統一財団の責任者でした。彼は全てのものをお母様の名前にすることをリーダー達に説得して行いました。

お父様は、お父様の名前を使われなくなり、お父様はこうするのが正しいことだと言われました。お父様は霊的な権限をもっておられたのです。

お父様が法的な実際の権限をもたれなくなって以来、国進様はお母様に完全に信頼を寄せられました。単な

る言葉とか、位置だけでなく、50億の資金が、、、

50億がソウルの新しい教会として、天福宮の建設の資金として500億が、お母様の指示で宣教会財団として蓄えられた。

お母様は、そのお金を宣教会財団として蓄えられました。国進様はお母様が、お父様がおられない時にリーダー達に頼み込む必要がないようにと。

国進様は、本当にお母様が内外ともに勝利した真の母となれるように準備されていました。本当にその為に準備されていたのです。

だから亨進様は説教の「バビロンの炎上」で、ミステリーだと、彼女の額にミステリーと書かれてあると語られました。国進様と亨進様にはミステリーでした。お母様がこのようにされることはまったくのミステリーだったのです。彼らには確信することはできませんでした。お父様が入院され、お母様がプラグを抜かれようとされるまでは！そのときまでは彼らは確信することができませんでした。

彼らは完全にお母様の為にされていたのです。亨進様は勝利の指輪をお母様のために準備もされていました。彼らは本当に勝利された真の母となられる為にサポートをしようとされていました。

韓国では、これは言いたくないことですが、人々の、お母様に対しての尊敬はあまり多くないのです。お母様は批判を受けていました。彼女は高校を卒業していないとか、彼女はただの温室育ちとか、彼女はなにもないとかの批判のリストがありました。彼女がどれだけ多くの服をもっているのか知っていますか？彼女はどれだけ富をもっているのか？などの批判のリストです。

亨進様はそのことをよくご存知でした。私達はそのことを十分にわかっていました。それで亨進様はお父様とお母様の為の祈りを書いた小さなビジネスのサイズのカードを作り、それを使い、唱えられようにしました。

そして、私はそれをメンバーと会うときに渡したり、配ったりしました。私達はそれを3カ国語で作りました。私達は小さなセレモニーの場を持つたり、実際、メンバー達に唱えてもらうように頼んだりしました。

亨進様は本当にお母様を、このように霊的にも積極的にサポートされていました。

また、私はお母様にスピーチを準備しました。亨進様が留守だったため、お母様にスピーチを届けました。そのスピーチはすべてお母様についてでした。

”どれだけお母様が信仰的な妻であられるか”

私達はお母様に勝利してほしかったからです。それは私達がお母様に関しての噂や、批判、さらにお父様とうまくいっていないとかを知らないからではありませんでした。それがお母様の真の本性ではないと信じていました。

お母様を本当に尊敬していたのです。

病院において、お父様にながら起こったのか話してもらえますか。

お父様は入院され、お母様はプラグを引き抜こうとされました。その時亨進様は世界会長でした。だから彼は日々の報告をしていました。どうかお父様の為に祈ってくださいというように。ところがお母様はプラグを引き抜こうとされていました。

それは、生命維持(延命治療)のことですか？

そうです。それは生命維持装置のことです。ある人は言いました。私の父か母であったなら、たぶんプラグを引き抜きますと。幾人かの人々はそうすると言います。

しかし、私達がここで話しているのはただの父親ではありません。私達はメシヤについて語っているのです。

私達はお父様にまだ意識があった時のことを言っているのです。お父様は生命維持装置でつながっていますが、お父様には意識がありました。

だから、亨進様、国進様の意見は、「私達はお父様が自然に亡くなられるようにすべきです。私達にはそれはできます。」ということだったのです。

しかし、お母様と金孝南はとても強く主張されました。金孝南は、孝進様、興進様、栄進様がここに来ておられ、彼らは霊的にこられ、お父様を迎えたがっておられますと語り始められました。亨進様はお母様にプライベートに話されました。

お父様は5階の部屋で、私達は10-12階くらいで、そこには小さな部屋がありました。私達はそこに連れられていき、そこから私達はお父様のおられる階へいつでも降りていくことができ、常に誰かが交代でお父様の病室に泊まりました。

それは適当な大きさの部屋で、小さな部屋とリビングルームがありました。その小さな部屋に亨進様とお母様は入っていかれました。

彼らはこの事について(プラグを抜くかどうか)話されていました。すると、突然大きな叩く音が部屋から聞こえてきました。

お母様はとても怒られて、「あなたは、なにも知りません！」「あなたは、まだ若すぎる！」というような意味の事を、正確には覚えてはいませんが、、、

大きな音が聞こえてきて、私達はお母様が亨進様を叩かれたことがわかりました。

お母様が彼の何処を叩かれたのかわかりませんでした、彼が叩かれた明らかな音がしました。

お母様は、亨進様のお父様への処置に対する”私達は、それは絶対できません”という強い反対が気に入らなかつたのです。

そして、その後亨進様と国進様は長老たちを呼び、訓母様やお母様がプラグを引き抜こうと思っていることに対して、どのように考えているのかを聴きました。

亨進様と国進様は、これをやったら、あれをやったらとか、例えば、なにか、マッサージとか、鍼とか何かで、何とか命をつなげることができるのではないのかと提案しました。

でも、お母様は亨進様と国進様が語るいかなる提案に対しても非常に怒られました。そしてお父様はそのあと清平に移されてから、亡くなられました。

お父様が亡くなられた後は？

韓国では埋葬する前に行う儀式があります。それは、”ヤム”と呼ばれる体をふくことです。お母様は実際に、亨進様と国進様がお父様の為にヤムをやるのを止めさせました。

「あなた達は、韓国の伝統を何も知らないの、それは、他の人達にやらせます。」と言われました。これは普通息子とか家族のメンバーがやることなのです。お母様はとても怒られていて、また彼らにはそのような機会も

与えてくれないほどで、まったくハッピーではありませんでした。

お母様は聖和式セレモニーの間、ずっと気を悪くされていました。その期間は12日か13日とかの長い期間でしたが、その期間に弔問者達が世界中から来て、この地上でお父様とのお別れをできるようにするためのものでした。

私達は、お父様は霊になって私達とともにおられることを知っています。キリストは決して死ぬことはないことを知っています。

地上では、私達はお父様の笑顔を、声を、実体として見ることができました。この聖和式の全体の間、多くの疑問、暗黙の言葉などがありました。

お母様は、亨進様を韓国から離れるように送り出された。

すべての、あのような試練の後、お母様は亨進様に韓国にいてほしくないといわれました。そしてお母様はお父様の聖和の後、突然連絡してこられました。「今、仁進様の問題、スキャンダルが出てきたのであなたが行かなければなりません。すべてを正してこなければなりません。私は、彼女(仁進様)をすべての責任位置から解雇し、Loving Ministry をストップしたので、あなた達はすぐに行ってすべてを正しい状態に戻しなさい。」

さらにお母様は、3年間は帰ってきてはだめですと言われました。彼女はとても強く言われたのです。非常に強く、3年間は帰ってきてはだめです！と。

それで、私はこう聞かざるをえませんでした。「私達は教会の行事とかには帰ってこれるのでしょうか？」と聞いたのです。彼女は、「ん、じゃ、あなた達はそれには帰ってきてても良い」と言われました。

しかしお母様は私達に、子供達をみんなここに置いて、すぐに行って3年間は戻ってくることを考えないようにしなさいと言われました。

韓国では、アメリカではどうかわかりませんが、普通リーダーが変わるときは、送迎式、そして就任式をしますが、そのときは何もやりませんでした。それほど亨進様は本当に急に解雇させられました。

どのように辞めさせられたかといえば、私達にピーターキムから電話がきて、あなたは韓国教会長の位置から解雇させられたと伝えてきました。そして韓国教会の本部の職員が、「私はこの位置(韓国教会長)を辞めます」と書いてある辞任のレターを持ってきました。

彼はサインしなければならなかったのですか？

そうです。亨進様はサインをしなければならませんでした。それは何か法的な書類であり、そこには、私は韓国教会長の位置を降ります、みたいな内容が書いてあるものでした。

私は覚えています、その人は実際に、亨進様の前で泣かれました。「亨進様は不当に解雇されました。このように解雇されることは、非常に不当であり、恥ずかしいことです」と。そしてその書類を持ってきた職員は泣かれました。彼は男性でしたが、亨進様の前で男泣きをされました。

そして彼は私達に、何も助けになることができなかつた事を謝られました。それ以来、次々と、アメリカに来て以来、徐々に、ひとつずつ解雇されていきました。

私は、一度お母様が韓国から電話をしてこられたことを覚えています。「あなたがアメリカにいて以来、あなた

が韓国の世界宣教本部に仕えることができないのでその会長の位置を解雇します。」

お母様はそのことで相談されませんでした。ただ一本の電話だけでした。「あなたは離れたところにいるので、私が決定しました。あなたは会長の位置を解雇されました。異議はないですよ！」それだけでした。

その他のことは、私達も知らないうちに起こりました。他の人から解雇されたことを聞くような状況でした。彼は解雇されました、。

アメリカの家庭連合会長としての、亨進様はどういう努力をされましたか？

アメリカでは、それはとても気落ちした状況でした。お父様は聖和されたばかりであり、仁進様のスキャンダルが吹き出てきたばかりで、そして人々は私達を信用する事ができない状況だったのです。

「あなたたちがこのこと(仁進様のこと)を知らないなんて、私達にどうしてわかりますか？リーダーとして、どうしてこのことを知らなかったのですか？」と聞かれました。しかし私達は知らなかったのです。私達は本当にまったく知りませんでした。

お父様の聖和の間に、みんながこの事を見つけました。仁進様が、この件に関して直接お母様と話されたのですが、彼女がお母様と話したその前の日が、私達がこのことを知った日なのです。

そのときを私は覚えています。亨進様はコンピューターに出ている書類をみながら、誰がいったいこのような書類を造り上げたのだ！！これは、偽造だ！！俺達はこいつを訴えてやる！！

それは、出生証明書のことですか？

そうです、出生証明書です。亨進様は本当に激怒されました！誰がこのばかばかしい書類を偽造したのだ！彼はこれ以上激怒できないほどでした。私達はこの者を訴えなければならない！これは明らかにやりすぎだ！！

最終的に、実際、私達は起こった事を信じる事ができませんでした！そして私達はアメリカに来ました。

教会のメンバーたちは怒っていました。お父様がもうおられないことに悲しんでいて、仁進様に、彼女がやったことに怒り、私達にも怒り、それは彼らの前にいる私達が信用できるのか、できないのか、わからない状況でしたので、

このような状況が私達の前にありましたが、私達は何をしなければならないか知っていました。だから私達なりにやったのです。12シティか、7シティか？私達は全米ツアーを始めました。

ある人々は質問してきました。”どうしてあなた達が一緒になって仕組んでないと私達にわかるのですか？”

さらに数人が尋ねました。”どうしてあなた達を信頼できますか？あなた達は知らないのですか？””どうして、あなたたちが知らなかったなんていえるのですか？”

亨進様も、霊的に沈んでおられました。しかし彼はやらなければならないことも知っていました。

(風が強く吹きぬける)風が強いですね！大丈夫ですか？

亨進様はとても落ち込んでおられました。だから非常に重要だったことは、それはお父様にしがみつ়くことで、それは生命線でした。これをどのように乗り越えていくか？

お父様は夢で答えを与えてくれました。

それは、彼が何かの祝福式か、何かのような場面で、お父様は何かを非常に怒られました。ひとつのカップルの祝福基準がだめだったのです。そして、彼はお父様の部屋へ歩いていきませんが、お父様は亨進様を見るなり、”絶対性”その一言を亨進様に語られました。

亨進様は目覚めたあと、答えを得たと言われました。どのようにアメリカの教会を建て直すか？それは、再び絶対性の基盤を作らなければならないことだとの答えでした。

私達は7シティツアーを終え、説教の録音を水曜日にしました。私達は家族の中心としての絶対性について語りました。夫と妻の関係が崩れれば、私達の子供たちに伝え残していくことはできません。

だから私達は神様に帰り、神様の心情を常に臨む夫と妻の関係をもつことです。実体世界において、垂直に同調して、生きた同伴としての夫と妻にならなければなりません。彼らはお父様が語った絶対性を訓練し、実践しながらひとつにならなければなりません。それが私達に常に出していたメッセージでした。

そのころは、、、私はそこにお母様と亨進様の間に大きな葛藤があることを知っていました。私がやったことは、、、

私達はアメリカ教会の為に3ヶ月仕えました。この期間に私は週に一度か2度、レポートを書きインターネットでお母様に、私達がこのようにあのようにとやったと報告を送りました。私達はこのシティで5時間にわたって、話をし、質問に答えました。時には7時間にも及び、このような質問がきました、など。また私達は絶対性を教え始めました。私達は人々がお父様を誤解している事のひとつである6マリアについて人々が、もっと深く理解してほしい、それで亨進様は探求しました。

彼は教会のすべての学者達に尋ね、それを集めて、それをもとにして、私達はこの摂理を説明するためのパワーポイントをつくりました。みなさんもこれを亨進様の説教でこのことを見ることができました。

そしてこの報告を、お母様はきっと喜ばれるに違いないという思いで送りました。

私は元周さんからEメールを受け取りました。元周さんは、あなた達は直ちに絶対性の教育をやめなさい、直ちに6マリアのパワーポイント教育コースをやめなさいと言いました。それですべてシャットダウンさせられました。

亨進様がアメリカ教会長を解雇された事

それは2013年だったと思います。ちょうど大きなセレモニー、教会のセレモニーがありました。おそらくそれは2013年の真の神の日だったと思います。その時はアメリカにいましたが、韓国に神の日の祝いで行ったときの事です。

お母様は、亨進様に「私は神様の呼び方を天の父母様の変えるつもりです」と話されました。亨進様は「お母様！、それはやってはいけません！ 神様の呼び名を何か別のものを変えることはできません！ そうでなければ私達は同じ神に仕えるのではなくります。聖書の神様はただお一人だけです。もちろん、そこには女性的な性相や男性的な性相が、神様の中にありますが、それは、ちょうどあなたのなかにも、男性的な性相がありますが、それでもあなたは女性なのです。」

お父様は、神様は主体であり、原理で言うところの男性格主体であると明確に話されました。お父様は明確にそのことを私達に語られました。簡単に変えていいものではありません。

亨進様はこのように説明をされました。私達はお父様と呼ぶのは彼が単に何か男性のような存在で、女性達を下に置くような存在でなく、彼をお父様と呼ぶのは、彼が人類すべての人々にとって主体だからです。

私達はみんな対象なのです。神様が主体です。だからこそ、私達はお父様と呼ぶのです。

しかし、お母様はこの件についてはとても強気でした。その時すでにお母様はリーダー達に通告されていて、いくらかのリーダーは実際祈祷で天の父母様によってと使っていました。

亨進様はあくまで否認され、「お母様、あなたはこれを変えることができません！」と言われました。

この後、大きなセレモニーにおいて、清平の天正宮の地下で、多くのメンバーの目の前で、お母様は突然、アメリカの大陸会長は金起勲氏であるといわれました。

亨進様は大陸会長でしたが、しかし、私はお母様が亨進様に解雇の事を告げられていたとは思わないのですが、お母様は新しい人事として、大陸会長として金起勲氏を紹介されました。みんなが拍手をしましたが、私達はとてもショックを受けました。

そのとき、初めて知ったのですか？

そうです、そのときはじめて解雇されたことがわかりました。私は亨進様に、「ハニー？ このことでお母様と何か話したのですか？」と聞きました。亨進様にとってもまったくの驚きでした。

そのあと私達は上の階に行き、お母様は言われました、「これであなた達のアメリカでの使命は終わりました。」このようにお母様が私達に伝えたのです。

このことで亨進様はなんとなく理解することができました。私達がアメリカへ行ったときは、アメリカの雰囲気は落ち込んだものであり、亨進様の就任式は行われませんでした。だから彼が解雇され方もこのようなものだったかもしれませんが、それはとても異様な感じでした。そこには退任式もありませんでした。

それで私達が務めた期間は3ヶ月です。お母様が約束したのは3年でしたが、このとき3ヶ月で解雇されました。

その後、あなた達は何をしたのでしょうか？何かやることを決めたのでしょうか？

私達はアメリカに戻ってきました。亨進様は特に退任式もありませんでしたので、メンバーとのお別れをこめて、、、私たちは7シティツアーをやり、お母様と約束した3年間で真の父母様が誇りを持つことができる教会にしようと、彼はこのことを伝えるためにいろんなところを回って伝えていこうとしていたのですが、実際には私達は空気の中のどこかに、、消えてしまったような状況であり、メンバーにとってもとても異様な状況なので、、亨進様は3節の手紙を書くことを決められました。

絶対性を教え続けたいこと、また彼はこの突然の解雇に対して、少しは驚いたことなどですが、でも彼はポジティブな姿勢を持ち続けられました。

しかし、お母様はこの手紙に対して非常に怒られたのです。お母様はとても手紙の内容に怒られ、すべてのリーダー、40人の主なリーダーを集められたと誰かに聞きました。

実際に主なリーダーの一人が私達の家を訪問してきて、亨進様に、お母様は非常にこの手紙の事で怒られているから、どうかお母様の前で悔い改めるようにと説得しようとされました。お母様は40人のリーダーの前で泣かれたようです。それで「どんな親不孝の息子がこのようなことをお母様にするのか？」と言われました。

亨進様は、私はただ辞表を書いただけだと言われました。そこには何も怒るような内容はないのだけれども、、、でも、お母様は謝罪を強く求めてこられました。「あなたは3週間以内に私のところにきて謝罪しなければなりません！」その他に、お母様が亨進様に何を言われたかは知りませんが、お母様が直接言われたわけではなく、大使として、リーダーの一人を送って、お母様の意向を伝えてこられたのです。

基本は、3週間以内にき、謝罪し、悔い改めなければならないという内容です。

その後、亨進様は、、、みなさんをご存知のように、彼はいい人です。彼はお母様を愛しておられます。本当に愛しておられるのです。そして私も彼に韓国に行ってお母様をこれ以上怒らせないようにと説得しました。

亨進様はお母様のところに行かれました。それは、、、その時を振り返れば、私はとても臆病でした。私がやったことを振り返ると、とても情けない私でした。

私は彼に、「ハニー、どうかお母様には何も言わないでください！」私は彼が言いたい意見は知っているのに、「何も言わないでください。ただ顔を出して息子が来ました。あなたの気分を害したなら謝ります。と言って、そして出てきてください。それだけがあなたが成すべき事です。わかりましたか。」と言いました。

しかし、亨進様はもちろん、私が願ったようにはしませんでした。

でも私はこのことは言うておきたいと思えます。亨進様はとてもお母様に敬意をもたれています。彼は実際お母様の前で膝まづかれて、話されている間お母様を抱擁されました。彼はお母様に「お母様、あなたは天聖徑を変えることはできません、あなたは神様の呼び方を変えることはできません。あなたを愛していますが、あなたはこのようにすることはできません。もしあなたが、これをすれば教会が分かれてしまいます。お母様、このようにあなたにいうことには本当に申し訳ありません。もしあなたがアメリカにこられたときは、そしてもし私に会いたければ、私はあなたにあなたが買ってほしいものを買ってあげます。でも私はお父様に反対するような何かをやることは正しくないと感じているのでできません。お父様と約束したので私にはできません！」

そして、彼の姿勢は、とても謙虚なものでした。とても謙虚でした。姉妹が部屋の隅のほうにいました。彼女はお父様の義理の娘です。そして彼女達は泣いていました。また、その他にスタッフの姉妹達もいましたが、みんな泣いていました。

彼女らは亨進様がなされた事に感謝していました。お母様は非常にそのことで怒られていて、お母様はそれをとても大きなことにされました。だからお母様はすべてのリーダーを呼び集められました。

しかし、亨進様はお母様を抱擁されようとしていました。彼はアメリカにいましたが、韓国に行ってお母様を抱擁されました。そしてもどって来た後、お母様は次々と変えて行かれました。次々に変えられ続けていかれました。

家庭盟誓を変え、聖婚問答を変え、亨進様が説教のなかで語られた事柄を変えていかれました。それで亨進様は沈黙を破ることを決意されました。

お母様との最後のミーティングは？

2013年、亨進様はお父様の聖和記念式の時にお母様に会いに行かれました。彼はお母様にまた同じ事を言われました。私はとても恐れていました。私は何も言うこともできず、ただ凍りついたように床を見つめるだけしかできませんでした。亨進様はお母様に、「あなたは、このようなことはできません！」「あなたは、お父様の御言葉を変えることはできません！」彼は再び、繰り返して同じことを言われました。

それから、私が覚えているのは、いつかは忘れましたが、亨進様はラスベガスで会われました。彼は再びお母様に会われて同じ事を言われました。「あなたはこのようなことはできません！もしあなたがやり続ければ教会は分断してしまい、お父様は喜ばれません。」

しかしお母様はお父様が、お母様がなされていることで喜ばれていると確信をもっておられました。お母様のスピリットは、とても純粋であり、訓母様のことを持ち出して、彼女がお母様に、お母様は非常に純粋(Pure)であり、お父様は霊界で嬉しがっておられると言われたと。

その後も何度か電話されました。母の日にお母様に電話をかけられたり、お母様の誕生日には花を贈られたり、そのようなことをなされました。

私たちが、ラスベガスで会ったときは、会話の途中でお母様は立ち去られ、母の日に電話をしたときは、亨進様は、「お母様、愛しています。」と言われましたが、お母様は、「私は会議中なので、行かなければなりません。私はあなたの電話に対応することはできません。私は忙しいのです」と立ち去れました。

私達は2014年の昨年、お父様の聖和記念式の頃、清平に行きました。でもお母様は亨進様と会うことを拒まれました。

お母様は、もしあなたがお父様の聖和記念式に参席し、あなた自身顔を出さなければ私はあなたに会いませんと言われました。

だから私達はお母様に会うことはできましたが、そのときのお父様の聖和記念式には、彼らが、清平が創った天
一國憲法が出されていて、そのため亨進様は「もし私が参席すれば、私はお父様の意志に反するこの憲法に
同意することになるので私は参席できません。」と言われました。

翻訳: Follow My Heart

<http://ameblo.jp/truemoonycanada/>

動画: <https://www.youtube.com/watch?v=H03FgAtv234>

※翻訳された Follow My Heart さんの許可を得て少し要約しています。